



平成 20 年 5 月 15 日

各 位

会 社 名	株式会社 浅沼組
代表社名	代表取締役社長 浅沼健一
コード番号	1852 (東証第 1 部・大証第 1 部)
問合せ先	本社経理部長 赤松 治
	TEL (06) 6768 - 5222

中期 3 ヶ年経営計画 (2008-2010 年度) の策定に関するお知らせ

当社は、平成 20 年度を初年度とする中期 3 ヶ年経営計画 (2008-2010 年度) を策定いたしましたので、お知らせいたします。

我が国経済は、緩やかながらも底堅く息の長い景気回復を続けていると見られるものの、アメリカ経済の減速や、世界的な株式・為替市場の変動等から、景気の先行きには不透明感が強まる所となりました。また建設業界におきましても、公共工事が減少を続けるなか、改正建築基準法施行の影響により住宅投資が大きく落ち込むとともに、原油や鉄鉱石、原料炭の価格急騰による建設資材、建設用鋼材価格の急上昇に見舞われるなど、経営環境は益々厳しさを増しております。

こうした状況のもと、当社は供給過剰構造にある市場競争に打ち勝ち、利益を生み出し続ける企業として成長するためには、本業の底力を再生するとともに、社会からお客様から信頼され必要とされる新たな価値を創出することが不可欠と考え、新たな中期経営計画を策定いたしました。

当社は、本計画の確実な遂行に全社をあげ取り組んでまいり所存であります。

株主の皆様、お取引先の皆様におかれましては、何卒ご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

中期3ヶ年経営計画（2008-2010年度）の概要

1. 基本方針

淘汰の時代を勝ち抜ける体質への転換を図り、本業の底力を再生するとともに、社会にとって、お客様にとって不可欠な企業としての価値を創出し、信頼を得られる企業となることを目指す。

2. 数値目標

(単位：百万円)

	2008年度	2009年度	2010年度
売上高	195,000	205,000	185,000
営業利益	700	1,800	2,200
経常利益	200	1,200	1,600
当期純利益	100	400	1,000
受注高	191,000	185,000	180,000

主な施策等に関しましては、添付の資料をご参照願います。

以上

本資料に掲載いたしました計画、予測または見通しなど将来に関する事項は本書面の発表日現在における当社の戦略、目標、前提または仮定に基づいており、実際の業績は様々な要因により、記載の計画、予測または見通しなどとは異なる結果となる可能性があります。



中期3ヶ年経営計画

2008～2010年度

株式会社 **浅沼組**

目次

①基本方針

②基本戦略

③基本戦略の展開 1 ~ 5

④業績目標

①基本方針

本業再生

本業の底力を再生するとともに、淘汰の時代を勝ち抜ける体質への転換を図り、社会にとって、お客様にとって、不可欠な企業としての価値を創出し、信頼を得られる企業になることを目指す。



②基本戦略

1 信頼される性能・品質を提供できる体制の構築

2 正確・迅速な原価管理の為の体制確立

3 営業分野・地域の選択と集中

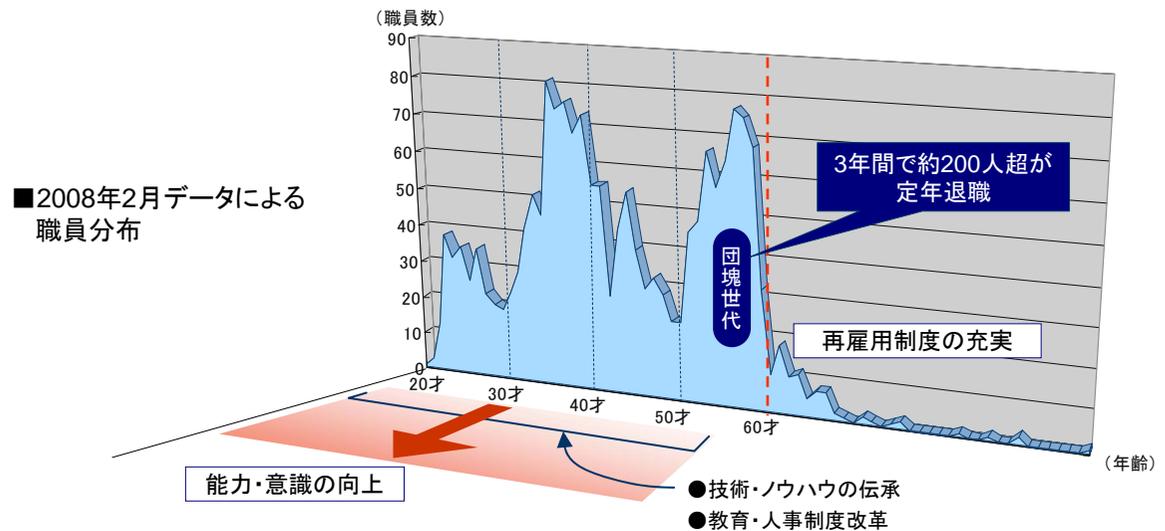
4 注力分野の技術・サービスの更なる向上

5 管理費の削減と資産・資金の有効活用

③ 基本戦略の展開

1 信頼される性能・品質を提供できる体制の構築

1. 顧客やユーザーの視点に立ったものづくり・サービスが徹底される人材育成を推進します。
2. 熟練技術者の能力を活かし、次世代に受け継がれる制度・体制を構築します。
3. 団塊の世代の大量退職に備えた効率的な人員配置、機能集約や人事制度改革を行ないます。

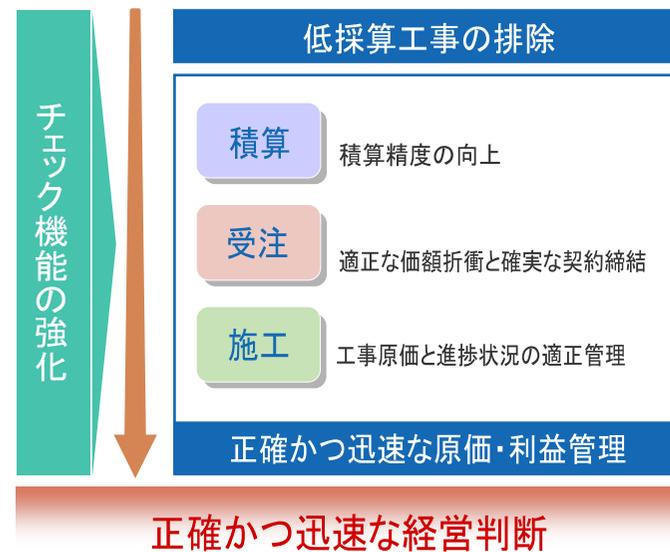


③ 基本戦略の展開

2 正確・迅速な原価管理の為の体制確立

- 1 顧客のニーズに迅速に対応し、正確な原価が把握できるよう、見積部門の能力強化を図ります。
- 2 正しく原価を把握し、正確な利益予測ができる体制づくりをします。

■ 原価管理適正化ポイント

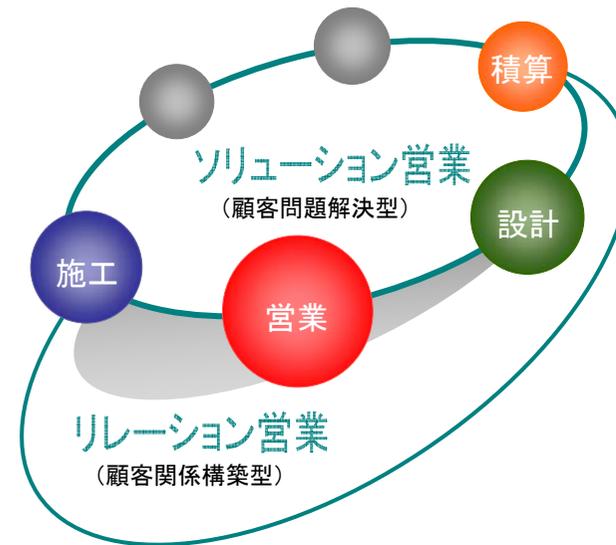


③ 基本戦略の展開

3 営業分野・地域の選択と集中

1. 営業所機能の母支店集約、官公庁営業部門のスリム化を推進します。
2. 総合評価方式等の技術提案力、ソリューション営業力強化のための教育・研修の推進、組織編制を行ないます。
3. 設計・施工・バックオフィス部門の営業支援強化策を推進します。

■ 目指す営業活動



③ 基本戦略の展開

4 注力分野の技術・サービスの更なる向上

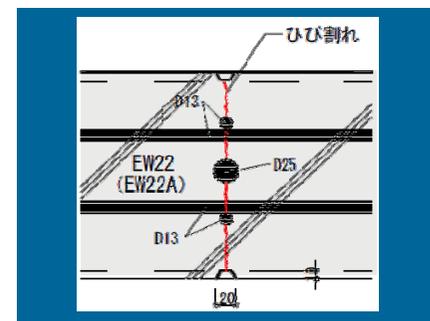
1. リニューアル事業部門を強化し、**年間300億円**の売上規模を目指します。
2. 耐震診断・補強工事、環境保全・修復工事等に対する取り組みを強化します。
3. ライフサイクルコストと環境負荷を低減し、高品質・高性能を実現する技術開発を推進します。



■ 耐震補強技術
(写真はプレキャストRC外付フレームによる耐震補強)



■ 最終処分場PFI
(写真は静岡県長泉町一般廃棄物最終処分場)



■ 高品質を実現する技術
(上図は鉄筋挿入型ひび割れ制御工法)

③ 基本戦略の展開

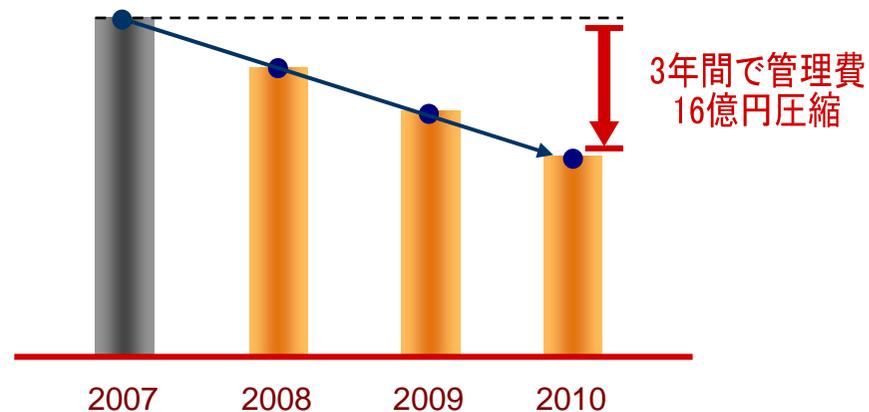
5 管理費の削減と資産・資金の有効活用

1. 営業所統廃合による固定費圧縮、組織のスリム化等により管理費を削減します。

2. 資産効率の低下した社有不動産の有効活用を進めます。

3. 資金の一元管理、回収効率向上等により、資金の有効活用を図ります。

■ 管理費削減目標



④業績目標

量の拡大を追わず、確実に利益の出る体質に転換し、次世代をにらみ企業価値を高める経営に徹します。

(単位:百万円)

事業年度	2008年度	2009年度	2010年度
売上高	195,000	205,000	185,000
営業利益	700	1,800	2,200
経常利益	200	1,200	1,600
当期純利益	100	400	1,000
受注高	191,000	185,000	180,000